

安全ネットを使用しないことで知られる老舗の曲芸ファミリーThe Flying Wallendas (空飛ぶワレンダたち) の7代目で、7つの世界記録を持つ米国の綱渡り名人ニック・ワレンダさんが6月23日、TV中継により全世界が舌を飲んで見守る中、史上初めてアリゾナ州グランドキャニオンで命綱なしでの綱渡りを成功させた。リトルコロラド川渓谷上空457メートルの高さに張られた長さ約426メートルのロープを22分54秒で渡り切った。彼は一年前にもナイアガラの滝の綱渡りに命綱なしで成功している。

しかし、彼は命知らずな豪傑でもなければ、一発狙いの山師などでもない。実に穏やかな顔をしている34歳で3人の子供のパパは、「運動能力こそが重要」と言い切り、1日6時間のトレーニングと、毎週10時間のウエイトトレーニング、さらに5時間の有酸素運動を続けるいっぽう、前回のナイアガラの挑戦の際には1896年以来滝の綱渡りが禁止されているため、アメリカとカナダの両国を1年以上かけて説得、この度の挑戦も4年越しの実現ということなど、常に周りへの配慮と地道な努力を惜しまない。

敬虔なクリスチャンである彼は、「神への信仰が最も大事」と綱渡りの前いつも神を礼拝し、「私はいつも祈っている」と彼が言う通り、綱渡りの最中も彼が祈っていたことは今回のTV中継でも確認された。“空飛ぶ男”は何とも地に足がついている。聖書は

「全ての真実なこと、全ての誉れあること、全ての正しいこと、全ての清いこと、全ての愛すべきこと、全ての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、その様なことに心を留めなさい。」ピリピ人への手紙4章8節

と忠告してるが、ワレンダさんの生き様に、平安で良識的な、神を愛し、人を愛し、自分を愛する信仰者の模範を垣間見た。

2013-7-9



